

まちの話題

正月の恒例行事

町内各地でとんどさん

一年の無病息災を願う、地域の伝統行事「とんどさん」が、今年も町内各地で行われました。

1月11日は、黒坂小学校校庭で、黒坂地区コミュニティ推進協議会(柴田滋会長)主催で、黒坂・菅福地区のとんどさんが行われました。

会場には、地区住民ら約80人が、正月のしめ飾りなどを持ち寄って燃やしなが、家内安全などを祈っていました。

また、手作りのぜんざいやお神酒も振る舞われ、訪れた人たちの体を温めました。



年初めの交流の良い機会にも

あなたの声や地域・職場での話題をお寄せください。
★役場企画政策課まで(電話72-0332)



左から、西村美香さん、生地常代さん、稲田晋也さん

目標に向かって進んで

セルプひのが絵馬を寄贈

高校受験を迎える町内の中学3年生に願いをかなえてほしいと、セルプひの(田子功司所長)の利用者が、手作りの絵馬を寄贈しました。

1月13日、日野中学校で行われた贈呈式では、利用者代表の生地常代さんが、「進む道は違っても、この絵馬に思いを託して、目標に向かって頑張ってください」と、3年生代表2人に絵馬を手渡しました。

渡された稲田晋也さんは、「絵馬の力を借りて受験に取り組みたいです」と感想を話しました。

気合いで耐えろ

空手寒げいこ

冷たい川で身を清め、今年一年の稽古の精進を誓う、空手の寒げいこが、1月25日に行われました。これは、日本少林寺流空手道錬成会館鳥取地区本部が毎年開いているもので、今年で25回目となりました。

集まったのは、県内をはじめ、関西地区からの参加者を含めた約60人。はじめに町文化センターで基本の稽古や型の披露、木の板や瓦を割る「試割り」が行われました。

そのあと、根雨の板井原川との合流地点近くの日野川に入り、雪が舞う中、気合いを入れながらこぶしを突き出し、寒さに耐えていました。



「エイ! エイ!」冷たくても我慢

地域の人に感謝して

根雨小学校もちつき

1月26日、根雨小学校の児童たちが育てたもち米を使った、恒例のもちつき大会が、同校体育館で開かれました。

使われたのは、児童が学校近くの水田で育てたスズハラモチ。児童らは、保護者や地域の人たちに協力してもらいながら田植えや草取り、収穫など、栽培を続けてきました。

手嶋千恵里校長は、「自分たちが育てた米を自分たちがついて味わうことはなかなかできないこと。支えてくれた家族や地域の皆さんに感謝しながらいただきます」とあいさつ、児童は、保護者らに手伝ってもらいながらもちをつき上げ、雑煮やぜんざいなどにして味わっていました。



見守られながら順番につく

1月24日から30日までの「全国学校給食週間」に合わせ、町内の小中学校では、保護者や食料生産者、行政職員らを対象にした、学校給食の試食会が行われました。

今回の献立は、児童が育てたもち米を使ったおこわや、町内で捕れたイノシシ肉を使ったしし鍋など、地元産の素材をふんだんに使ったもの。子どもたちは、豊かな自然に囲まれた日野町に住んでいることの良さを感じながら味わっていました。

また、試食会の参加者も、児童と同じテーブルで給食を味わい、食を通して子どもたちと交流していました。

学校給食試食会

みんなで「いただきます」



楽しくおしゃべりしながら食べました（根雨小学校）

今に残る奇習で厄落とし

伝統行事「ほとほと」

菅福地区に古くから伝わる伝統行事「ほとほと」が、1月31日に行われました。

これは、地元の男性たちが、みのかさ姿のほとほと役に扮し、厄年を迎えた家庭を訪問するもの。

家の人たちは、ほとほと役が縁起物を置いていったん引き返し、再び現れて帰るところに向けて、一斉に冷たいバケツの水を浴びせて厄を落とします。

今年は、地区内の2軒の家庭を訪ねました。水をかけた女性は、「これで厄が落とせました。今年はいいい年になりそうです」と話していました。



勢いよく冷水がかけられる

医療・福祉に支援を

平井知事との意見交換会

2月3日、平井県知事と日野町の意見交換会が開かれました。

これは、知事が県内の全市町村を訪問して開いているもので、日野町では、「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉のまちづくり」をテーマに行いました。

会場の町役場には、県・町関係者をはじめ、日野病院ほか町内の福祉・老人保健施設の代表者ら約30人が集まりました。

意見交換会では、人材確保や補助金の継続・新設など、各所属から県への意見や要望があり、知事や県担当者が回答しました。

知事は、過疎高齢化の進む町の福祉の現場の声を聞き、「できることは県で支援していきたい」などと答えていました。



平井県知事

支えてくれた人に感謝

日野中学校防災ガラス寄贈式

旭硝子㈱が昨年12月に行ったネット投票の結果、日野中学校体育館に防災ガラスの寄贈が決まり、2月6日、寄贈式が同校で行われました。

これは、災害時に避難所として使われる同校体育館のガラス約300枚が、割れにくい防災ガラスに無償で交換されたもの。谷本和賀雄校長は、「今回の投票を通して、日野町の人々のパワーを実感できた。支えてくれたいろいろな人たちにお礼を言いたい」と喜びを語りました。

寄贈式に先立って、ガラスについての出張授業も行われ、通常のガラスや強化ガラスと、防災ガラスをハンマーで叩いて強さを比べる実験も行われました。

参加した中山翼さん（1年）は、「ほかのガラスは普通に割れたけど、防災ガラスは、はね返される感じで穴があかなかった」と感心していました。



景山町長（右）へ盾が贈られる